# 第 23 週

## 質問 59. それでは、これらすべてを信じるなら、あなたに今、どのような有益がありますか。

**答えⅠ** キリストにあって私は、神の御前に義とされ、永遠の命の相続人なります。[01]

❶ 質問 21 番では、真の信仰の性質について説明しました。そして、質問 25–58 番までは、信仰の内容についての説明でした。その次の質問 59 番と 60 番では、真の信仰の効果と、その有益について説明しています。信仰があなたにどのような有益を与えるのか、という質問に対する答えです。

❷ この地では、どこの誰であっても、自分の救いや罪の定めと宣言されることはありません。人間は、自ら審判者にはなれないからです。人間にはそのような権威はありません。唯一、神のみがまことの審判者となられます。神は正しく、聖く、全知なるお方だからです（ヤコブ 4:2）。しかし、神は、私たちが、ただキリストにあってのみ義と認められる道を備えてくださいました（ロマ 3:21）。

❸ 従って私たちは、キリストにあってのみ義と認められます。キリストのうちにいれば、まるで、私たちが神の律法を完璧に守ったかのようになり、義と

---

01　ハバクク 2:4、ヨハネ 3:36、ロマ 1:17、5:1–2.

認められるのです（1ヨハネ3:7）。それは、キリストが律法のすべての要求を終わらせたからです。私たちは信仰によってキリストにつぎ合わされ、それらの恩徳が、私たちのものになるのです。そのキリストの義が、私たちの義となり（ピリピ3:9）、神が私たちを義人と認めてくださるのです。義と認められた私たちは、裁きや罪の定めに至ることなく、永遠の命への権利が付与されるのです（詩32:2）。

❹ 神の御前で義とされたとは、私たちの罪となる生き方と性質とが、完全にすべて無くなったという意味ではありません。私の考えと言葉と行動とが完全に純粋になって、罪が無くなったということでもありません。罪人である私が、罪の結果による裁きから赦しを受け、放免されたことを意味します（ロマ 4:8、8:37）。死と宣告された犯罪者が赦しを受け、その権利が回復されたことと同じです。これが、信仰から得られた第一の有益です。このことを指して、義と認められたというのです。

❺ 赦しを受けられた罪人は、罪によって失われていた命が取り戻され、永遠の命への相続人となります。神は私たちに、永遠の命を得る資格を付与してくださいました。これが、信仰による第二の有益です。私たちは、信仰によってキリストにつぎ合わされ、その義だけでなく、その命にも加わるようになります（ヨハネ6:40、ロマ8:17、テトス3:7）。

❻ それゆえ、義と認められた者は、それ以上、罪となる生活を楽しむことはできなくなりました。聖なる生き方を追い求め、神が喜ばれることを追い求めるようになります。罪に対する神の裁きという恐れは、すでに、嫌になるほど経験しただけでなく、到底、自分の行いと生活からは、自ら義となることは不可能だと徹底して体験したからです。

また、それにも関わらず、キリストにつぎ合わされたことによって、自分の罪が赦され、神が、裁きから放免させてくださったことを、余りにもよく知っ

ているので、過去の罪となる生活を続けることはできないのです。そういうわけで、永遠の御国を相続として受ける者として、喜びながら、この世での苦難によって悲しんだり失望することはありません。なぜなら、時が来れば、永遠の御国を相続として受けられるからです（ヨハネ 6:40、ロマ 8:17、テトス 3:7）。

## 質問 60. どのようにしてあなたは、神の御前で義とされるのですか。

**答えⅠ** ただイエス・キリストを信じる、まことの信仰によってのみです。[01] すなわち、たとえ、私の良心が、私に向かって訴え「お前は神の戒めをはなはだしく破り、それを何一つ守ったこともなく、[02] 今なお、絶えずあらゆる罪に傾いている。[03]」と責め立てたとしても、神は、私のいかなる功績にもよらず、[04] ただ恵みによって、[05] 神は、私が全然、どのような罪も犯していないかのように、まるで、私がすべてに従順であったかのように、キリストが私のために服従なさったことによって、[06] 私に、キリストの完全な贖いと義と聖とを私のものと認めてくださいました。[07] これから私がすべきことは、信仰の心で、このような有益を受け入れることです。[08]

---

01 ロマ 3:21-28、ガラテヤ 2:16、エペソ 2:8-9、ピリピ 3:8-11.
02 ロマ 3:9-10.
03 ロマ 7:23.
04 申命記 9:6、エゼキエル 36:22、テトス 3:4-5.
05 ロマ 3:24、エペソ 2:8.
06 ロマ 4:3-5、Ⅱコリント 5:17-19、1 ヨハネ 2:1-2.
07 ロマ 4:24-25、Ⅱコリント 5:21.
08 ヨハネ 3:18、使徒 10:30-31、ロマ 3:22.

❶ 義と認められるとは、父なる神が悔い改めと、信じる罪人たちに、施してくださる法的行為です。神は裁判官です（詩 50:6、イザヤ 1:18）。ところが、罪人が法廷に召喚されました（Ⅱサムエル 12:7）。この時、私たちの罪を責め立てる者がいますが、私たちの良心です（ロマ 2:15）。この良心は、律法によって目覚めます（ヨハネ 5:45）。目覚めた良心は、私が神の戒めをはなはだしく犯し、戒めの何一つ守ったことがなく、今なおすべての悪に偏っていることを告訴します（ロマ 3:23）。

私たちが、すべての悪に偏っているとは、私の古い人、つまり、腐敗性を意味します**(勿論 このような古い人は 新生した者にも まだ残っていて 相変わらず活動します)（ロマ 7:14、21–23）**。それで、その良心が立ち上がって、あなたの考えと言葉と行動が、神の戒めを破ったのだと告訴します。このように訴えられる罪人は、自分について弁明したり、正しいと主張したりすることができなくなります（ヨブ 9:3）。神の正しい裁きの御前で罪人に返って来るのは、死の宣告しかないのです（エゼキエル 18:20）。それゆえ罪人は、ただ裁判官に、「慈悲をお与えください」と祈ること以外、できないのです（ルカ 18:13）。

❷ しかしキリストが、私たちの罪の代わりに裁きを受けられました。それによって神を完全に満足させました（ロマ 5:19、Ⅱコリント 5:14）。キリストは人間として来られて、贖罪のために全き従順を通されたことで、キリストの義と聖が現れました（ヨハネ 8:46、Ⅰペテロ 2:22–24）。神の子であるキリストが、神に対する全き服従によって義と聖とを確保なさったのです。

このようなキリストの義は、神によって選ばれた罪人が悔い改め、信じる時、賜物として人間に付与されるのです（ロマ 3:24）。私たちが、まるで、決して罪を犯さなかったかのように、すべての戒めを全部守ったかのように見なしてくださるのです。キリストが全き従順を通して成就なさったことを、私に付与なさったからです（Ⅱコリント 5:19, 21、ロマ 5:20）。

選ばれた罪人が、悔い改めと信仰を持つことによって義と宣言されるのは、聖霊の有効な御業です。罪人の心に、その罪が赦され、義と認められたという

宣言は、聖霊の御業によって現われることです。それによって、赦しを受けられた罪人は、神に向かってアバ・父と呼びながら、自分は神の子どもになれたという確信を持ちます（ロマ 8:15–16）。

❸ 神は、このような恩徳などを恵みによって与えます。義と認められることは、ただ、真の悔い改めと信じる者にだけ与えられます。従って、真の悔い改めと信仰によってイエス・キリストを信じる者は、このような恩徳の価値と貴重さをすでに悟っている者たちです。彼らは、自分の行為によっては、どのような義も成し遂げられないことを徹底して認め、キリストの義だけを求めます。ますます義に飢え渇く者の姿を持ち（マタイ 5:6）、キリストの義を着るためにキリストに出て行くのです。このように、キリストに出て行くことが信仰です。

ここで、ただ信仰によって義と認められるとは、キリストの従順によって完成された義を、絶対的に必要とする中で（使徒 4:12、ヘブル 7:25）、義に飢え渇くようになり（マタイ 5:6）、ただキリストを避け所として走って行き（イザヤ 53:4–5）、その義とされた中で喜び、楽しむことを言うのです（ロマ 8:31–34）。

## 質問 61. なぜ、ただ信仰によってのみ、義とされるというのですか。

**答えⅠ** 私の信仰が価値があるから、神が、私を受け入れるのではありません。ただ、キリストの贖罪、義、聖のゆえに、私が神の御前で義なる者となるのです。[01] 信仰以外に、ほかの方法で義とされることはできず、その義を、私自身に適用させることもできません。[02]

---

01　1 コリント 1:30–31、2:2.

02　ロマ 10:10、Ⅰヨハネ 5:10–12.

❶ 神は、キリストの義を根拠にして人を義と認め、義を転嫁させ、義を付与なさいます。従って、真の悔い改めと信じる罪人は、義の転嫁によって完全に義人と見なされます。彼が全然、どのような罪も犯していないかのように受け入れてくださるのです（ロマ 4:6）。

パウロは、アダムの罪が私たちに転嫁されたように、キリストの義が、私たちに転嫁されたことを明確に語っています（ロマ 5:15, 19）。このように、キリストが私たちに転嫁させる義は、キリストが全き従順と贖罪によって獲得なさったものです。キリストは、仲保者としての働きを完成なさったことで、義を確保されました。そして、その義をユダヤ人にも異邦人にも差別がなく、信じる者に転嫁させるのです（ロマ 3:29–30）。

❷ それでは、私たちの信仰が、いくらか価値があって、このように私たちを義と認めてくださるのではないかと考え安いです。決してそうではありません。私たちの信仰に価値があって、私たちを受け入れてくださるのではなく、キリストの贖罪、義、聖のゆえなのです。ここで、私たちの真の信仰とは、私たちの無価値さと、私たちの行為は、不正で満ちていると認めることです（ピリピ 3:8–9）。自分のどのような行為によっても正しくなれないことを、徹底して認めることが含まれます。律法を守って義となれるかのように努力はしてみたが、不可能さを徹底して悟っている状態です。つまり、律法を完全に守れないことを悟っていることです。それで仕方がなく、外部からの義で覆われたいと渇望することです（ガラテヤ 2:16、ロマ 3:28）。

ここで信仰とは、道具と同じです。信仰は、キリストをつかむ道具となります。キリストをつかんで、キリストに私自身を結び合わせるのです。この信仰は、ただ知識に同意する水準ではありません。これはまるで、死ぬ病気にかかった病人が名医者をつかむことと同じです（マルコ 2:17）。このような恵みの過程の中で、信仰が発生されますが、これも、私自身から出るのではなく、神の恵みによって成ることです。従って、信仰に関しても決して自分を立てたり、自慢することもしてはならないのです。

❸ 信仰によって義と認められる過程、あるいは、キリストの義が私に適用される過程は次と同じです。罪人が、神の御言葉と聖霊によって、自分が罪人だというのと、自分には義がないことを悟り、自分の罪が赦されることを求めるのですが、神が、キリストの中に罪の赦しを用意されたことを悟らせます。これは、徹底して聖霊さまが御言葉によって、その霊魂を覚醒させたから可能なのです。それで、赦しと義に覆われたいとキリストに走って行くとき**(信じる時)**、聖霊さまは、私の霊と共に私が義とされ、神の子どもになっていることを証しします（ロマ8:15）。聖霊さまが有効な御業を行うことによって、救いの確信が与えられ、私にその恵みが確かであるのを知るようにさせます（ロマ5:5）。

❹ 従って、義とされる信仰を持っている者は、自分が信じたからだと誇ったり、高ぶることなどできません（Ⅰコリント 1:29）。また、義とされたので、これから、救いは自分のものになったと言いながら、怠慢になったり怠けたりもしません。不正な自分を受け入れてくださったことに感謝し、聖なる者になろうと努力します。不正と罪の嫌悪さをすでに徹底して経験したので、罪と戦おうとします。

勿論これは、キリストに結合されているから、その恩徳によって可能です。信仰があると言いながら、このようなことが、現われないのなら、真の信仰であるのかを点検しなければなりません（Ⅰヨハネ2:4-9）。もし、その信仰が偽り信仰、あるいは、死んだ信仰なら、義とされた効果と実はないからです（ヤコブ2:17）。

偽り信仰とは、信仰告白もあって、ある程度の霊的体験もあるのですが、謙遜ではなく、神の御言葉を守ろうとする熱心もありません。死んだ信仰は、信仰告白はあるけど、敬虔の実践はありません。信仰告白だけがあって、信仰告白に相応しい生活での証拠はないのです。このような偽り信仰は、いくら自分自身が信仰告白をしていると主張しても、救いに至る信仰ではなく、義と認められる信仰ではありません。ただ自分を欺く信仰に過ぎないのです。